



今年の大河ドラマに取り上げられ話題になっている『源氏物語』。その中から名場面の1つとされる「車争い」(葵の巻)を題材に、実際に本文を読みながら、当時の婚姻制度や貴族の女性の生き方について読み解いていきます。

また、作者の紫式部についても、実際はどのような人であったのか、その生涯や藤原道長をはじめとする貴族達との関わりについて、『紫式部日記』の記述を中心にお話しすることとします。



奈良学園大学
人間教育学部
人間教育学科
鍵本 有理 先生

開催予定

日時：2024年5月11日(土)10:30~12:00
場所：奈良学園大学 3号館 1階 3101教室
定員：30名(定員に達しましたら、募集を締め切らせていただきます)

※ソーシャルディスタンス・換気・消毒の徹底等、感染防止対策を行います。

こちらから
申込みください。



第19回登美ヶ丘カレッジ
申込フォーム

ニュースレター第13号 編集後記ご挨拶

2024年度最初のニュースレター第13号をお届け致します。
第12号以降も地域に根ざした「健康フェスティバル」、「関西文化学術研究都市推進機構と奈良学園大学との包括連携・協力に関する協定調印」等のローカルな展開がありました。また、「カンボジア短期研修」「セブ島語学研修」「奈良学園大学・蘇州科技大学文化交流会(オンライン)」等のグローバルで新たに充実した活動が積み重ねられています。今後も学生・教職員の意欲的な取組によって、地域の皆様やアジア諸国等と深くつながり、人間力育成・グローバルマインド醸成・語学力向上のために、さらに「グローバル」*な展開が広がっていくことをご期待ください。

以下は、2024年度「奈良学園大学登美ヶ丘カレッジ」(前期分)の開催予定です。

- 【第19回】5月11日(土)10:30~12:00
テーマ「『源氏物語』の名場面を読む—「車争い」に見る当時の婚姻—」
担当講師：人間教育学部 鍵本有理
- 【第20回】7月13日(土)13:30~15:00
テーマ「子どもの健康と発達」
担当講師：看護学科 小池伝一
- 【第21回】9月15日(日)10:10~11:10
テーマ「健康増進における身体活動と栄養の重要性—奈良市健康測定事業の傾向も踏まえて—」
担当講師：リハビリテーション学科 中島大貴

お問い合わせの上、多くの皆様にご参集頂けますよう、心からお待ちしております。



奈良学園大学
社会・国際連携センター長
善野 八千子

*「グローバル(Glocal)」とは、「地球規模・世界規模」を意味するグローバル(Global)と「地元・地域」を意味するローカル(Local)という2つの英単語を組み合わせた造語。

音楽専修 第1回卒業演奏会

私たち音楽専修は、初の試みとして卒業演奏会を2月に実施しました。入学当初は新型コロナウイルスの影響で、なかなか集まって練習ができないなどの制約はありましたが、こうして最後に多くの人の前で演奏することができ、音楽の力を再認識できる良い機会となりました。

演奏会では、管楽器やピアノ、声楽など一人で発表する学生や、3人組になって演奏する学生もいました。また自身の曲をまとめ、プレゼンテーションを行ったり、最後には学生が創った混声四部合唱曲を卒業生と在校生が一緒になって歌ったりと、多彩な発表が行われました。

音楽があったから私たち音楽専修学生は、コロナ禍でも前を向き続けられました。コロナ禍を経たからこそ、離れていても人を繋ぐことのできる音楽のすばらしさを奈良学園大学音楽専修で実感することができました。これから先も後輩のみなさんが私たちの音楽を引き継ぎ更に発展させ奏でていってくれることを願っています。

文：井植啓徳(卒業演奏会実行委員長、2024年3月人間教育学部卒業) 文責：森瀬智子



卒業演奏会 プログラム



合唱



三重奏

登美ヶ丘地区社会福祉協議会
のご紹介

「登美ヶ丘地区社会福祉協議会」を紹介いたします。
登美ヶ丘地区社会福祉協議会/中村 光美



「登美ヶ丘地区社会福祉協議会」なんと長い名称!略して「登美ヶ丘地区社協」とお知りおきください。地区社協は、奈良市全域それぞれの小学校校区ごとに配置されております。

メンバーは地域に住んでいる普通のおっちゃん、おばちゃん達で、ボランティアとして活動しており、その目的は、ざぱり地域のつながり作りです。知り合うことから始めて、挨拶する関係が生まれ、その関係がどんどん広がり、また繋がって、人と人が作る地域の大きなセーフティーネットができることを目指します。そこには温かい言葉や思いやりの気持ちが生まれてくるのではないのでしょうか。無関心ほどさみしいことはありません。

子供から高齢の方まで誰もが笑顔で安心して暮らせる登美ヶ丘を目標に、地区の皆様と一緒に意見を交わしながら、微力ですが活動していきたいと思っています。

また奈良学園大学様には、3年前にスタートした、つながり作りのイベント「登美ヶ丘わいわいフェスタ」で、先生方をはじめ、学生の皆さまにもご協力をいただいております。地区に貴校があり活動を共にできることは、大変嬉しく心強いです。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



ご挨拶



奈良学園大学
保健医療学部 学部長
服部 律子

令和6年4月に保健医療学部長に就任いたしました。奈良学園大学保健医療学部は、看護学科とリハビリテーション学科の2つの学科からなり、看護師、助産師、保健師、理学療法士、作業療法士の国家試験受験資格を取得できるプログラムを提供しています。また、それぞれの学科には、看護やリハビリテーションの“現場”で生じる課題を探究し、実践に活かせる研究力を備えた高度専門職者を育成する大学院を設け、幅広い年齢層の大学院生を迎えてそのキャリアアップを支援しています。

令和5年度には、イノベーションの最先端に触れ、学術研究都市を知る「けいはんな学研都市学」を共通教育科目として開講したり、財団法人関西文化学術都市推進機構と連携協定を結んで相互の連携強化を図ったり、リハビリテーション学科を中心に大阪・関西万博と連携して開催される「けいはんな万博2025」に先進健康関連研究分野で参加を計画したりと、新たな取り組みを始めています。

開学11年目を迎え、保健医療の専門職を育て、その活躍を通して地域社会に貢献するという変わらぬ歩みをさらに発展させるべく、新たなステージに向かって挑戦を続けていきたいと思っております。

奈良学園大学の教員紹介

奈良学園大学 人間教育学部 人間教育学科

岡本 恵太 先生



国語科の研究に取り組んできた経験から、学習者が「背伸びをすること」が大切だと考えています。適切な言葉づかいを身に付けるためには、少し努力して話したり書いたりすることが必要になります。そのためには「楽しく、安心して」背伸びできる環境づくりが重要です。私は大学の近くに住んでいます。住民としての立場、教員の立場の両面から地域における「学びを支える環境づくり」に関わってまいります。

奈良学園大学 保健医療学部 看護学科

臼井 キミカ 先生



2023年4月に奈良学園大学に就任しました臼井キミカと申します。今年は、能登半島地震に見舞われた大変な年明けでしたが、皆様のご家族・ご親戚・ご友人の方々にも被災された方がおいでになるのではと存じます。心からお見舞い申し上げます。

さて、大学の最近の嬉しいニュースは、保健師助産師看護師の国家試験の全員合格の報が届いたことです。朝な夕なに学生や教職員を温かく見守ってくださっている地域の皆様にも、このニュースをお伝えし、共に育ててくださったことに深く感謝申し上げます。

私の専門領域は、「老年看護学」であり、看護活動の場で出会った人々の生活背景や価値観・自立性を尊重し、その人らしく過ごしていけるように、保健医療福祉専門職や、地域の人々と協働・連携することを大切に活動しております。

奈良学園大学 保健医療学部 リハビリテーション学科

池田 耕二 先生



私は理学療法士で、老年期障害理学療法（高齢者の理学療法）を教えています。本分野で活躍する理学療法士は心が優しく、誠実な理学療法士の方が多いと感じています。私はそれをみて理学療法教育、人材育成の重要性、必要性を強く感じ大学教員になりました。学生の皆さんと心優しい、誠実な理学療法士になるためにはどうすべきか、新たな時代に求められる理学療法士像とはどのようなものかを議論しながら共に成長していきたいと思っております。

卒業生からのメッセージ



奈良学園大学
人間教育学部
人間教育学科
2期生
筒井 悠陽 さん

私は、奈良学園大学で小学校教諭、中学校教諭(国語)、高等学校教諭(国語)の免許を取得しました。兵庫県の教員採用試験に合格し、小学校の教員になって6年目を迎えます。

小学校では日々新しいことばかりで、毎日楽しく過ごしています。子供たちが一生懸命練習をして、できなかったことができるようになった時や「算数が好きになった」などと言ってくれた時にはとてもやりがいを感じます。

奈良学園大学では現場での実習や実践的な講義が多く、そこで学んだことは今でも活用しています。また、教員採用試験の際にはアドバイスや勇気を与えてくださるなど、大変お世話してくださりました。この大学で4年間学ぶことができ、改めて良かったと思います。

在学生からのメッセージ



奈良学園大学
保健医療学部
看護学科
4回生
田坂 花楓 さん

私は将来、重症心身障害児とご家族との密な関わりを通して喜怒哀楽を共有し合いながら、疾患へ一緒に向き合える看護師になりたいです。病気というのは時に人を孤独にし、辛くさせます。だからこそ、患者さんだけでなくご家族へのケアも重要となってきます。

現在は3回生の後期にある領域実習を終えた頃で、ついに春から4回生になります。この3年間、仲間と切磋琢磨し励まし合いながら過ごしてきました。自分がもう4回生になるのかと思うと早く感じますが、授業で学んだことが線として繋がった実習での学びや患者さんとの出会いは財産であると捉えます。その時の思いや感じたことを大切に、思い出しながらこれからも勉学に励んでいきたいです。



健康フェスティバル

2月3日に開催された健康フェスティバルを通して、大学生活で関わることの少ない地域住民の方と交流を深めることができました。私たちは嗅覚テストの担当をすることになり、嗅覚の神経や認知症の予防に繋がると説明させていただいたのですが、初めはうまく説明することができませんでした。しかし、説明をする回数を重ねていくごとに理解していき、徐々にスムーズに説明できるようになりました。また、嗅覚テストの結果だけをお伝えするだけではなく、日常生活で嗅覚を意識してもらうなどのアドバイスをすることも大切であるということがわかりました。看護師として働くと、患者さんが理解できるような言葉で説明することが大切になってくるので、健康フェスティバルの中でどのように伝えると伝わるのかを学ぶことができました。健康フェスティバルに参加して、短い時間の中で成長することができ、座学や演習では学ぶことのできないことを学べて良い経験になりました。

文：山口楓華 倭あずさ 池端花鈴（保健医療学部1回生） 文責：蓮池光人

